

# 第2回 再骨折予防研修会 報告書

日時：2014年6月26日(木) 19:30～

会場：ユニソンプラザ 4階 大会議室

# 御挨拶

新潟市医師会

理事 荻荘則幸

平成 25 年 7 月に当時の新潟市医師会長、佐野正俊先生が新潟市医師会骨粗鬆症連携委員会を立ち上げられました。その発端は、新潟リハビリテーション病院長の山本智章先生からの提案でした。高齢者の骨折は増加の一途をたどり、その予防として骨粗鬆症の診療をしっかりと病診連携で行っていききたい、また多職種連携で骨粗鬆症の予防、再骨折（二次骨折）を予防していききたいというお考えのもと、「骨粗鬆症への多職種、多診療科での包括的アプローチを行うことで健康寿命の延伸に寄与するという新潟モデルの構築」を当委員会の理念としました。

その一環としまして、平成 25 年 10 月には新潟市医師会会員全員に骨密度検査、骨粗鬆症診療のアドバイス等の医療連携を構築するためのアンケート調査を行いました。その結果、上記に対する受け入れ可能な施設数 58 施設（病院 10 施設、整形外科診療所 34 施設、それ以外の診療所 14 施設）、また骨密度測定機器の種別では、体幹 D X A 法が 17 施設、末梢骨 D X A 法が 24 施設でした（当会の H P 参照）。

また、現在では脳卒中地域連携パス、各種の癌の地域連携パス、急性心筋梗塞、糖尿病にも地域によってはパスが導入されてきています。このパスの中でも大腿骨近位部骨折地域連携パスは一番最初となる平成 18 年に立ち上げられました。この地域連携パスに参加している施設との連携を図るために平成 25 年 12 月より年に 2 回行うことを目標に第 1 回再骨折予防研修会をパス会議の後に実施しました。第 1 回のこの研修会では、「寝たきりを防ぐために」という主題のもとに山本智章先生より「再骨折予防手帳の紹介」、高橋美徳先生より「骨粗鬆症骨折の疫学」、島垣斎先生より「骨粗鬆症治療薬のオーバービュー」について講演を頂き、医師、看護師を初め多数の職種の皆様、約 200 名の参加がありました。

今回平成 26 年 6 月の第 2 回研修会においても同様の出席がありました。今回この研修会の総括となる報告書が完成し、研修会に対する参加者の感想を読ませていただき、今後ますます多職種連携、地域の皆様に対する啓発活動が大切であると考えさせられました。

今後も新潟市医師会として、この連携委員会、再骨折予防研修会を推進して、地域の高齢者の皆様の健康寿命の延伸に貢献していききたいと思います。

# 御挨拶

新潟リハビリテーション病院  
山本 智章

先日、英国ロンドンで開催された運動器の10年の世界会議に出席させていただく機会がありましたが、そこでは地球規模の課題の一つに脆弱性骨折の二次予防が取り上げられていました。骨粗鬆症によって引き起こされる骨折は高齢者の活動性を奪い、生命予後を悪化させ、さらに医療経済にも大きな影響を与えていることが示されるとともに今後アジア地域での急激な増加が予測されており、組織的な行動を起こすべきとの提言がされていました。日本は世界一の超高齢社会と最長寿国であることからまさに急務の課題とも言えます。

さて新潟では30年にもおよぶ全県骨折調査が行われており、新潟大学整形外科では脆弱性骨折への取り組みを早くから注目していました。大腿骨近位部骨折地域連携パスについても新潟・新発田地域、長岡地域、上越地域とそれぞれの基幹病院を中心に組織が立ち上がり医療連携が行われています。そして新潟・新発田地域で始まった再骨折予防研修会は骨折患者さんに関わるすべての職種が知識の共有と情報交換の場として大きな役割を果たすことが期待されます。今回の第二回の研修会では病院から、診療所から、また医師、理学療法士など様々な視点から再骨折への取り組みが紹介されています。

医療制度の問題など再骨折予防は簡単ではありませんが、骨折高齢者におけるケアギャップを少しでも埋める努力が再骨折患者を減らし、骨粗鬆症性骨折全体の増加に歯止めをかけることができると考えられます。本研修会がパス会議とともに開催され、地域医療連携、多職種連携の力になるよう皆さんで発展させましょう。

## ～第2回再骨折予防研修会～

# 骨粗鬆症治療における多職種の包括的取り組み

謹啓 時下、先生方におかれましては益々ご盛栄のこととお慶び申し上げます。この度、下記の通り、「第2回再骨折予防研修会」開催のお知らせを致します。骨折既往のある患者さんは、整形外科だけでなく、様々な診療科へ通院をされている現状がございます。そのため、再骨折は多診療科、多職種で取り組むべき課題であり、寝たきりを防ぐためには多診療科、多職種の連携が、不可欠です。是非、院内外の多職種の皆様をお誘いあわせ頂き、当会を地域住民の健康長寿のためにお役立て頂きたいと考えています。大変ご多忙のことと存じますが、ご出席下さいますようお願いいたします。 謹白

場所

新潟ユニゾンプラザ 4階 大研修室

新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 TEL025-281-5511

日時

2014年6月26日(木) 19:30～20:40

開会の辞

新潟市医師会 理事 ゆきよしクリニック 荻荘 則幸 先生

座長

新潟市医師会 理事 ゆきよしクリニック 荻荘 則幸 先生

講演1

『骨粗鬆症外来診療における看護師の力』

整形外科・皮膚科しまがきクリニック 院長 島垣 斎 先生

講演2

『骨粗鬆症患者の運動療法の基本』

新潟リハビリテーション病院 理学療法士 高野 義隆 先生

講演3

『骨折リスクとFRAXの活用』

西新潟中央病院 整形外科 高橋 美德 先生

講演4

『大腿骨近位部骨折パスの今後の展望』

～生活期(維持期)との連携にむけて～

西蒲メディカルセンター リハビリテーション科 青木 可奈 先生

閉会の辞

新潟大学 名誉教授 高橋 榮明 先生

<主催> 新潟市医師会 / 新潟市医師会骨粗鬆症連携委員会

<後援> 新潟県医師会 / 再骨折予防研究会 / 大腿骨頸部骨折新潟地域連携パス研究会

本講演会は日本医師会生涯教育制度の1単位と2カリキュラムコード[ 10(チーム医療)、14(医療と福祉の連携) ]が取得できます。

## 第2回再骨折予防研修会 事前アンケート

職種・勤務先に○をつけてください。

職種：医師 歯科医師 看護師 保健師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 MSW  
ケアマネージャ ケアワーカー 薬剤師 栄養士 その他（ ）

職種の勤務年数（ 年）

勤務先：病院 診療所 入所型施設 \_\_\_\_\_

調剤薬局 行政 居宅サービス事業所 \_\_\_\_\_

その他 \_\_\_\_\_

1. あなたは骨粗鬆症の医学的知識(病態、治療)について十分に理解していますか。

十分にしている まあ理解している あまり理解していない 全く理解していない

2. あなたは骨粗鬆症治療の現状について十分に理解していますか。

十分にしている まあ理解している あまり理解していない 全く理解していない

3. あなたは再骨折を予防するための方法について十分に理解していますか。

十分にしている まあ理解している あまり理解していない 全く理解していない

4. あなたは骨粗鬆症患者や骨粗鬆症に由来する骨折後の患者に対する治療やケアに積極的に従事していますか。

積極的にできている まあ積極的にできている あまりできていない 全くできていない

5. あなたは再骨折を予防するため多職種と連携して治療やケアを行っていますか。

よくできている まあできている あまりできていない 全くできていない

6. 骨粗鬆症に基づいた脆弱性骨折の予防に、あなたは患者様(対象者)に何を勧めていますか。

運動一般 運動療法 栄養改善 栄養療法 薬物治療 転倒予防 住宅改修 その他

(勧められていること全てに○をお付けください。)

具体的に実施されていることを、お教えてください。

## 第2回再骨折予防研修会 事後アンケート

職種・勤務先に○をつけてください。

職種：医師 歯科医師 看護師 保健師 理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 MSW  
ケアマネージャ ケアワーカー 薬剤師 栄養士 その他（ ）

職種の勤務年数（ 年）

勤務先：病院 診療所 入所型施設 \_\_\_\_\_  
調剤薬局 行政 居宅サービス事業所 \_\_\_\_\_  
その他 \_\_\_\_\_

1. あなたは骨粗鬆症の医学的知識について理解が深まりましたか。

かなり理解が深まった まあまあ理解が深まった あまり変わらない 全く変わらない

2. あなたは骨粗鬆症治療の現状について理解が深まりましたか。

かなり理解が深まった まあまあ理解が深まった あまり変わらない 全く変わらない

3. あなたは再骨折を予防するための方法について理解が深まりましたか。

かなり理解が深まった まあまあ理解が深まった あまり変わらない 全く変わらない

4. 今後、あなたは骨粗鬆症患者や骨粗鬆症に由来する骨折後の患者に対する治療やケアを積極的に実践できそうですか。

かなり実践できそう まあ実践できそう あまりできそうにない 全くできそうにない

5. 今後、あなたは再骨折を予防するため多職種と連携して治療やケアを実践できそうですか。

かなり実践できそう まあ実践できそう あまりできそうにない 全くできそうにない

6. あなたのお立場から、①再骨折予防にむけた連携についての具体的なご提案、②本研修会の感想をお聞かせください。

# 事前アンケート結果

アンケート実施		2014年6月26日			
アンケート対象	総計	184名			
	職種	医師	18名	ケアマネージャー	18名
		歯科医師	0名	ケアワーカー	3名
		看護師	52名	薬剤師	6名
		保健師	2名	栄養士	2名
		理学療法士	36名	その他(介護職)	2名
		作業療法士	9名	その他(クレーン)	3名
		言語聴覚士	0名	その他(事務)	4名
		MSW	22名	その他	4名
		無記入			3
勤続年数	5年未満	41名	35年以上	5名	
	5年～9年	38名	無記入	6名	
	10年～14年	32名	平均勤続年数	13.5年	
	15年～19年	13名			
	20年～24年	16名			
	25年～29年	15名			
	30年～34年	18名			
勤務先	病院	93名	居宅サービス事業所	17名	
	診療所	30名	その他	17名	
	入所型施設	13名	無記入	6名	
	調剤薬局	4名			
	行政	4名			

※「相談員」「社会福祉士」等はMSWに含めました

## 1) あなたは骨粗鬆症の医学的知識(病態、治療)について十分に理解していますか

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1 十分にしている    | 8件  |
| 2 まあ理解している   | 90件 |
| 3 あまり理解していない | 81件 |
| 4 全く理解していない  | 5件  |
| 5 無回答        | 0件  |

## 2) あなたは骨粗鬆症治療の現状について十分に理解していますか

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1 十分にしている    | 7件  |
| 2 まあ理解している   | 74件 |
| 3 あまり理解していない | 99件 |
| 4 全く理解していない  | 4件  |
| 5 無回答        | 0件  |

## 3) あなたは再骨折を予防するための方法について十分に理解していますか

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1 十分にしている    | 7件  |
| 2 まあ理解している   | 86件 |
| 3 あまり理解していない | 82件 |
| 4 全く理解していない  | 9件  |
| 5 無回答        | 0件  |

## 4) あなたは骨粗鬆症患者や骨粗鬆症に由来する骨折後の患者に対する治療やケアに積極的に従事していますか

- |               |      |
|---------------|------|
| 1 積極的にできている   | 13件  |
| 2 まあ積極的にできている | 35件  |
| 3 あまりできていない   | 111件 |
| 4 全くできていない    | 21件  |
| 5 無回答         | 4件   |

5) あなたは再骨折を予防するため多職種と連携して治療やケアを行っていますか

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1 よくできている   | 3 件   |
| 2 まあできている   | 48 件  |
| 3 あまりできていない | 102 件 |
| 4 全くできていない  | 28 件  |
| 5 無回答       | 3 件   |

6) 骨粗鬆症に基づいた脆弱性骨折の予防に、あなたは患者様(対象者)に何を勧めていますか (勧めていること全てに○をお付けください)

運動一般	41 件	薬物療法	69 件
運動療法	49 件	転倒予防	127 件
栄養改善	63 件	住宅改修	57 件
栄養療法	24 件	その他	0 件

6) 具体的に実施していること

職種	勤続年数	勤務	記載内容
理学療法士	4	病院	再骨折手帳を勧める
理学療法士	9	病院	運動指導(転倒予防)
理学療法士	5	病院	集団活動での転倒予防(下肢筋力、立位バランス)
看護師	20	その他	なるべく動くように勧めている。カルシウムが含まれている食品を摂取するよう指導。
理学療法士	9	診療所	運動を励行していきます。
看護師	30	病院	手帳を用いた指導
MSW	2	病院	定期的な通院、治療の継続
医師	25	診療所	骨粗鬆症投薬加療
理学療法士	15	診療所	個別指導と相談
看護師	20	その他	運動への取り組み、治療の継続、カルシウムを多く含む食品の摂取および日光浴
ケアマネジャー	8	入所型施設	上記全てを話す。全てが関連性があり、一つとして必要でないものはない。
その他	8	その他	地域における介護予防事業の中で、脆弱性骨折の予防体制が構築できるのかの検討を、これから開始したいと思います。
医師	40	診療所	① 診療にて運動の仕方を指導している ② 食物や食事について(Ca、ビタミンDの摂取)について説明指導

職種	勤続年数	勤務	記載内容
理学療法士	7	病院	リハビリ
作業療法士	7	病院	リハビリ
ケアマネジャー	14	その他	まだ再骨折予防の研修を受けたばかり。これから自分たちがやることを考える。
看護師	4	病院	介護認定の推奨。家族、患者への日常生活の注意点に対する説明。
栄養士	17	行政	Ca、VD摂取

# 事後アンケート結果

アンケート実施		2014年6月26日			
アンケート対象	総計	193名			
	職種	医師	17名	ケアマネージャー	20名
		歯科医師	1名	ケアワーカー	2名
		看護師	53名	薬剤師	7名
保健師		2名	栄養士	2名	
理学療法士		37名	その他(介護職)	2名	
作業療法士		9名	その他(クレーク)	3名	
言語聴覚士		0名	その他(事務)	4名	
MSW		25名	その他 無記入	5名 4	
勤続年数	5年未満	40名	30年～34年	18名	
	5年～9年	39名	35年以上	4名	
	10年～14年	28名	無記入	21名	
	15年～19年	12名			
	20年～24年	17名	平均勤続年数	13.4年	
	25年～29年	14名			
勤務先	病院	97名	居宅サービス事業所	21名	
	診療所	31名	その他	14名	
	入所型施設	12名	無記入	9名	
	調剤薬局	4名			
	行政	5名			

※「相談員」「社会福祉士」等はMSWに含めました

- 1) あなたは骨粗鬆症の医学的知識について理解が深まりましたか
 

1 かなり理解が深まった	42件
2 まあまあ理解が深まった	141件
3 あまり理解ができなかった	10件
4 全く理解ができなかった	0件
5 無回答	0
  
- 2) あなたは骨粗鬆症治療の現状について理解が深まりましたか
 

1 かなり理解が深まった	50件
2 まあまあ理解が深まった	132件
3 あまり理解ができなかった	11件
4 全く理解ができなかった	0件
5 無回答	0
  
- 3) あなたは再骨折を予防するための方法について理解が深まりましたか
 

1 かなり理解が深まった	58件
2 まあまあ理解が深まった	124件
3 あまり理解ができなかった	9件
4 全く理解ができなかった	0件
5 無回答	2件
  
- 4) 今後、あなたは骨粗鬆症患者や骨粗鬆症に由来する骨折後の患者に対する治療やケアを積極的に実践できそうですか
 

1 非常に必要性を感じる	20件
2 必要性を感じる	126件
3 どちらとも言えない	43件
4 必要ない	1件
5 無回答	3件
  
- 5) 今後、あなたは再骨折を予防するため多職種と連携して治療やケアを実践できそうですか
 

1 非常に必要性を感じる	18件
2 必要性を感じる	127件
3 どちらとも言えない	44件
4 必要ない	2件
5 無記入	2件

## 6) 再骨折予防にむけた連携についての提案

職種	勤続年数	勤務	記載内容
理学療法士	10	病院	骨粗鬆症マネージャーの取得を考えていますが、今後取得者を対象として情報交換し合う場があれば良いと思っています。他院がどのように取り組んでいるかを知りたいです。
理学療法士	6	病院	質問 急性期→回復期の転院時、回復期のBedが空くのを待っている場合、地域包括ケア病棟へのワンクッション後に転院することは可能ですか？
看護師	22	病院	入院患者が超高齢化しました。80～90～100歳の患者さん方が医療依存度が高くなり自宅にも帰れず施設にも行けず介護療養棟は常に満床でまるで医療棟の様相を呈しています。骨折も寝たきりの方が多いのに柵にぶついたり理由のはっきりしたものだけでなく何故骨折したのかわからないケースもあります。OPEも出来ずギプス固定だけでは骨形成が出来ず偽関節を形成するまで要観察の方も居ます。このような方にどう接したらよいか困っています。骨折したらどう接してどういうことに注意して介助すればよいでしょう。
その他	8	その他	連携するシステムの全体像をまだ明確に出来ていないため具体的な提案ができません。
	14	その他	治療中断する理由の中で、料金の問題で施設入所する際どうしても注射から内服に変更せざるを得ないことが出てきます。良いアドバイスが欲しい。
その他	2	病院	連携チーム(各HP間で)の作成などいかがでしょうか。パスの共用も大変効果があると思います。
看護師	34	入所型施設	老健にはFx治療後の方が入所されて来られます。青木先生のおっしゃるように多剤服用と薬価の問題で継続が困難であることが現状です。色んな意味で矛盾を感じています。②今後も最新の医療の現状を知りたいと思います。ありがとうございました。
薬剤師	31	調剤薬局	実際に取り組んでいる様子などの話が聞きたい
理学療法士	0	診療所	各職種内での再骨折予防に対するレクチャーの実施、知識の底上げ。
ケアマネジャー	7.5	入所型施設	1つの課題に絞り、ゆっくりとした講義をやってほしい。
ケアマネジャー	7	居宅サービス事業所	具体的な資料(発表内容)があると嬉しいです。
理学療法士	7	病院	リハの分野だけで再骨折予防を進められない。当院でもチームの取り組みを強化していかないと実感しました。
理学療法士	9	病院	運動療法の実践、継続できるようなアドバイス
理学療法士	3	病院	運動療法の提供
理学療法士	3	病院	再骨折予防手帳を退院時に患者様へ渡しますが、その後活用されているのかフォローされている医院やデイサービス等の職員が見ているのか等のその後を終えたら良いと思います。
理学療法士	10	病院	患者さんの入院中からの自主的な運動週間をつけるために、毎朝体操を実施しています。

職種	勤続年数	勤務	記載内容
看護師	20	病院	多職種でかかわる事で再骨折予防に取り組むことができると感じました。他施設での取り組みがもっときけるといいとおもいました。退院後の老健等の施設の方々にも参加してもらえればいいなと思っています。老健さんにこの会の参加って働きかけ等していますでしょうか？ぜひインフォメーションしてください。
理学療法士	20	行政	生活期の活動↑のために地域の集まりの場が必要。地域包括ケアとのつながりも考えていけたらと思いました。
看護師	26	入所型施設	薬物療法による効果が知りたい
理学療法士	17	病院	地域連携パスにて急性期のPtが回復期病院に転院される中で今回の医療改訂上、地域包括ユニットの病棟偏正のからみがあり、訪問指導、その他指導が算定できない現状にあります。当院では(骨パスPtが即、包括ユニットに入棟されるケースが多いです。)急性期病院の段階で住宅環境の評価など情報提供が十分にされれば転倒予防に向けた訓練も実施しやすいと思います。

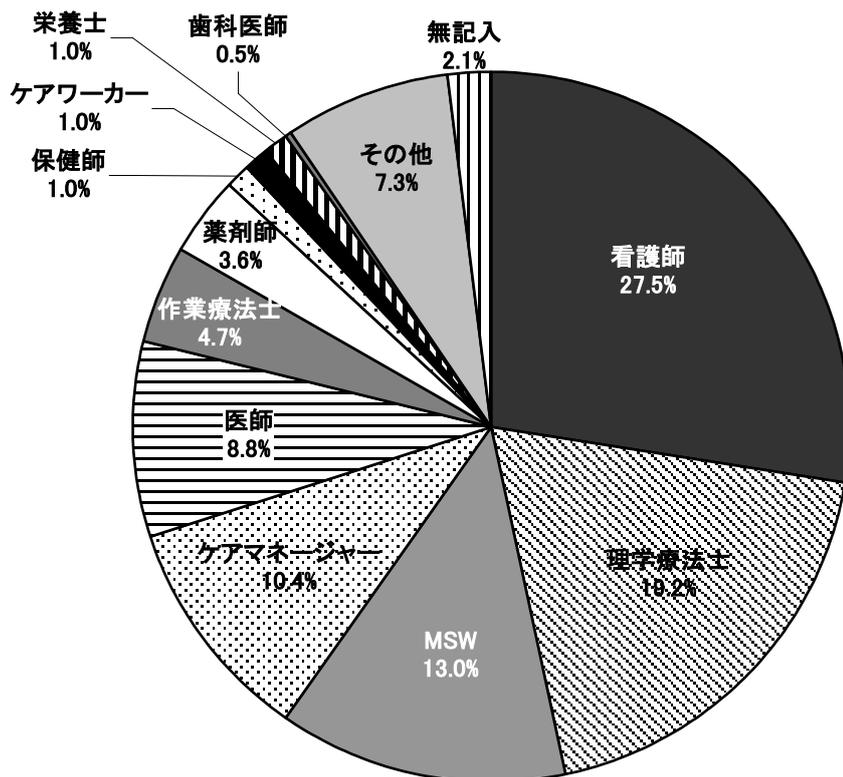
## 6) 本研修会の感想

職種	勤続年数	勤務	記載内容
看護師	30	病院	当院でも多職種の人と連携して取り組んでいきたいと思う
ケアマネージャー	5	居宅サービス事業所	骨粗鬆症についてと骨折が密接するという理解がとても深まりました。今後利用者の方には治療を勧めたいと考えます。
作業療法士	10	病院	手帳を利用して継続的な治療に各スタッフが関わることで統一した指導や介入ができて転倒予防につながればと思った。今後の自分の患者さんへの関わりの参考になりました。
理学療法士	1	病院	時間を守って欲しい
理学療法士	1	病院	これから運動療法を指導していく上でとても為になりました。
理学療法士	0	病院	新人で骨粗鬆症についての理解はあまり深くありませんでしたが、今回の研修会で理解が深まり良かったです。臨床に活かしていこうと思いました。
作業療法士	0	病院	本研修会へ参加する前は骨粗鬆症に対する理解があまりない状態でしたが、今回の研修会を通して学生生活で学ぶことができなかった知識、骨粗鬆症に対するケアの重要性を学ぶことができたので、大変貴重な勉強となりました。
看護師	10	診療所	初めて研修会に出席させて頂きました。色々勉強になりありがとうございました。
その他	8	その他	大変参考になりました。まず自分が医学的知識治療の現状課題を理解することが必要であることに気付かされた。ありがとうございました。

職種	勤続年数	勤務	記載内容
ケアマネジャー	0	その他	資料を示して頂きたいです。先生方の御講義が早口すぎて聞き取り難さがありました。又パワーポイントが全く見えない細かさもありました。多職種共働が必要との話が多い中、本日もケア関係者の参加が多いのでは？内容は多様な参加者が理解できたのでしょうか。残念です。
ケアマネジャー	3	居宅サービス事業所	医療側との連携を取る際の窓口はどなたなのか・・・戸惑ってしまいます。
看護師	15	診療所	今回の研修会参加し、より多職種の連携がとても大事であることを再認識できた。
MSW	4	診療所	他職種との連携はとても大切だと思う。特定の方だけでなく、一つの目標に向かって志を一つにして行うことが大切だと思った。
その他	8	診療所	定期的な開催を望みます。
看護師	34	居宅サービス事業所	ケアマネジャーにこの研修をきいてもらいたい。デイサービスに勤務するNsとしてはどうすることもできない。パワーポイントの(配布)資料がないと、振り返りができないし、知識も深められない。
ケアマネジャー	12	入所型施設	大変勉強になりました。施設の中で骨粗鬆症治療は行われていないと思います。骨折後Drからも骨粗に関しての治療もすすめられてないと思われるのでなかなかすすめられてないと感じている。寝たきりの方の骨折(再骨折)だと、連携パスは必要としていないのか・・・実際に使用している方を見たことはないです。
ケアワーカー	5	入所型施設	大変勉強になりました。実際にはパスを見たことはありません。もっと多くの方が知識を得て、現場で活かせると思いしました。
MSW	0	病院	貴重な講演ありがとうございました。
理学療法士	8	病院	訪問リハビリに従事しているが、利用者におそらく骨粗鬆症患者がいると思うが、主治医が整形外科でない場合、また主治医が整形外科でもどのように骨粗鬆症治療を促して良いかわからない。
理学療法士	0	診療所	短い時間でしたが内容の濃い研修会で大変勉強になりました。
その他(事務)	20	診療所	大変良いお話で今後の参考にしたいと思います。
作業療法士	5	診療所	内服についての知識が低いと感じた。継続されていない方も多いため、継続の重要性を伝えていきたい。
看護師	18	病院	急性期病院として再骨折予防手帳を記入して患者に渡すという役割を果たしたい。手帳がどのくらいどのように活用され再骨折がよぼうできたか見えたらいと思う。
看護師	30	病院	大腿骨近位部Fxの通院パスを使い始めました。Dis後、初外来時入院中にNsが指導していたことが活かされているが聞き取り調査予定です。予防手帳を有効に活用するにはどうしたらよいか思案中です。本日の研修会の内容を参考にさせていただきます。手帳に関する質問はさせていただきますでしょうか。
MSW	13	病院	今まで退院支援で骨折予防のためにデイケア(通RH)をすすめることがなかった。運動療法の重要性を知ることができた。どちらかという日中独居となる為、再転倒リスクが高く、家に一人にならないように、体力が落ちないように、今より悪化しないようにという視点で、デイケアをすすめていたことを振り返ることができた。本日は良い研修を受けることができてよかった。ありがとうございました。

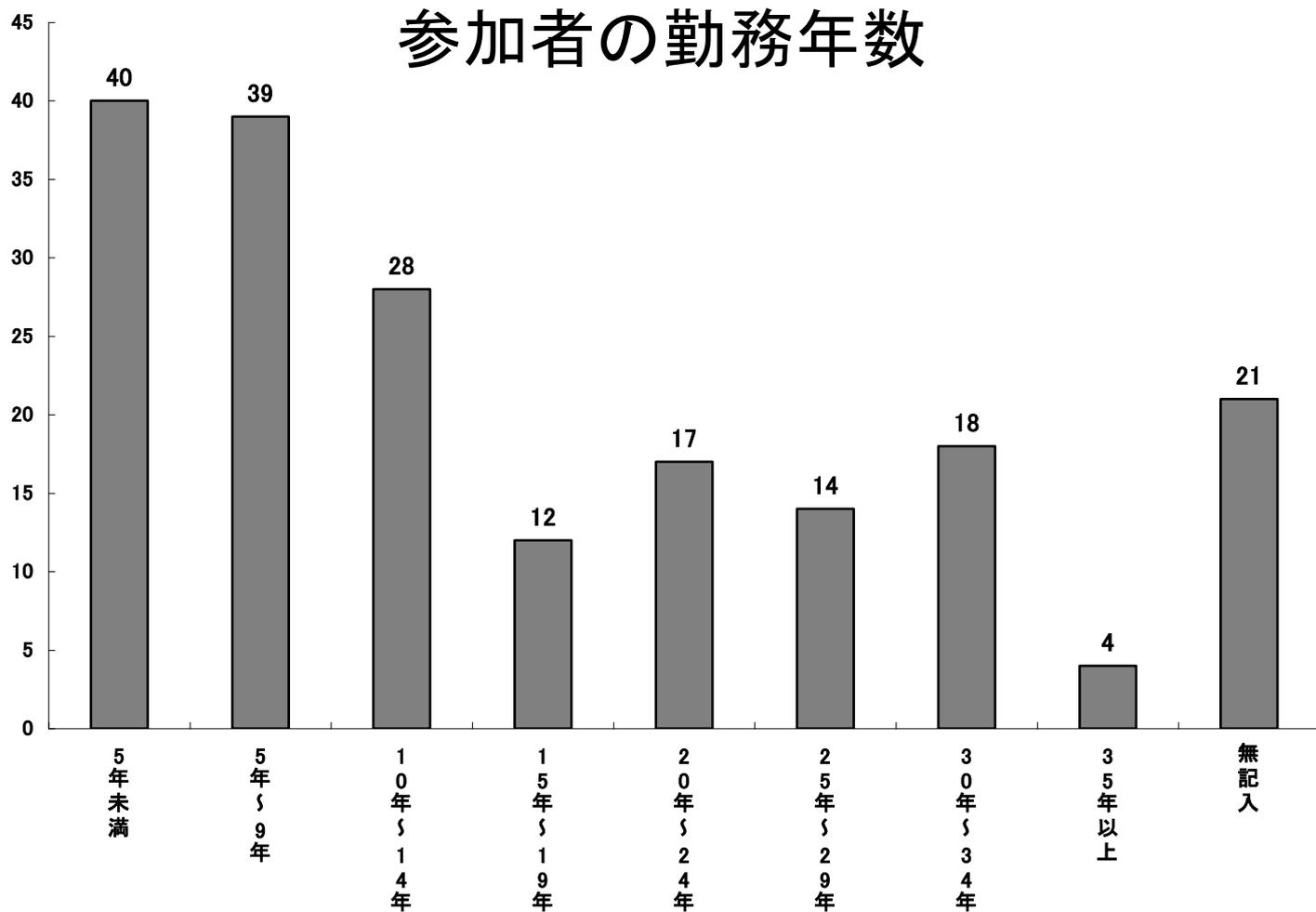
職種	勤続年数	勤務	記載内容
理学療法士	9	病院	知らない分野(FRAX)のことについて勉強になった。
MSW	0	その他	高橋先生のお話はとてもためになりました。ありがとうございました。テーマが多職種協働ということだったので参加させていただきました。講演をきくことで骨粗鬆症についてや骨折との関連について理解を深めることができました。また服薬の大切さもよくわかりました。ただ多職種とか維持期というには、在宅で生活に関わっている方の実践の発表が少なかったのが残念です。もう少し在宅で、又、在宅とのつなぎ役をしている方の講演も入れてもらえるとうれしいです。ゆきよしクリニックの荻荘先生もおっしゃっていましたが、色々なパスや手帳が増えていて、実際活用している高齢者本人が混乱しています。医師会や市で、なんとかしてもらえたら現場としては、そして高齢者本人にとって助かります。よろしくお願いします。
理学療法士	3	病院	様々な職種での考え方がきけてよかった。もっと病棟を連携していかねばと思った。
その他(事務)	16	病院	骨粗鬆症予防の大切さをより感じることができました。
看護師	4	病院	Nsとリハビリの方々とのリハビリアプローチ方法、考えに差があるとは感じていました。そのため、病棟とリハビリ室でのリハビリはつながりが薄かったが、Dr.Nsの役割、PT,OTなどの考え方が聞けて、協力し理解しながらPtの支援をしていこうと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
医師	16	病院	急性期病院の労働環境をかえない限り現行の治療をこなすだけで精一杯と思われます。急性期病院での医師が行う事務作業を減らすことが再骨折予防に関わる第一歩と思われます。
看護師	0	居宅サービス事業所	役に立った。連携の大切さがわかった。
看護師	0	入所型施設	ケアマネージャー、居宅サービス施設も連携に大いに活躍されるとな骨折、再骨折予防がすすんでくると思いました。
看護師	24	病院	講演2の運動療法の基本を当院でも取り入れたい。(リハビリに復券を出さなくても65歳以上の患者さん全員にパンフレットを渡したい)

# 参加者の職種



【事後アンケートより】

# 参加者の勤務年数

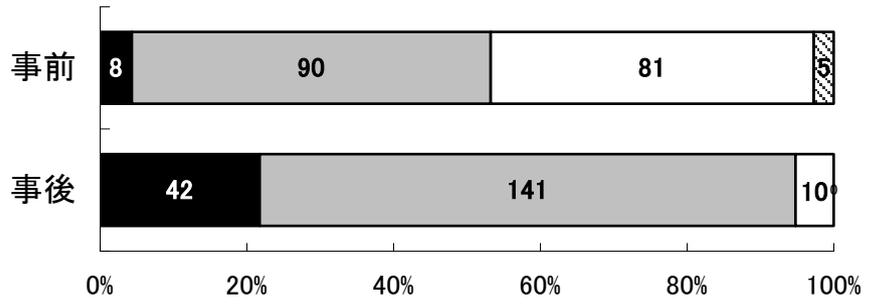


【事後アンケートより】

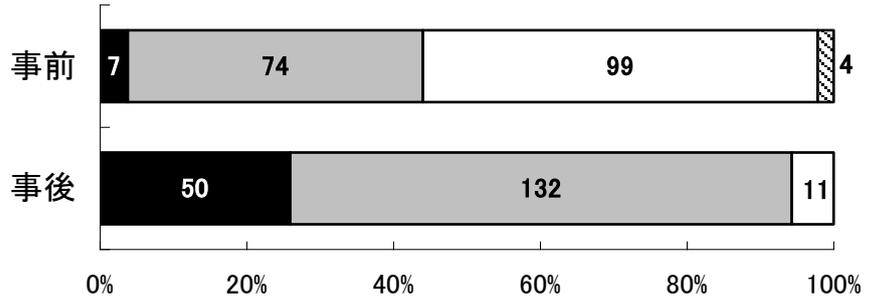
# 事前・事後比較

事前N=184  
事後N=193

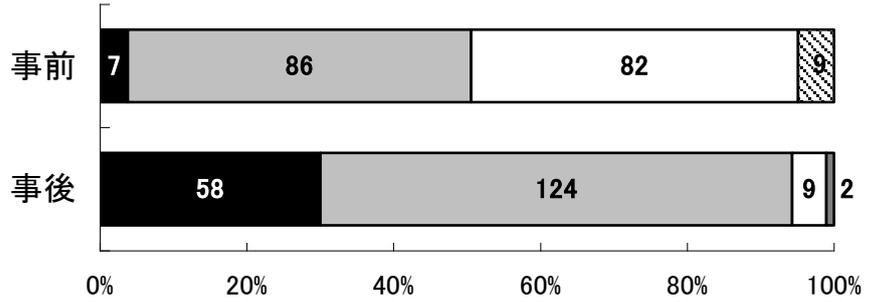
1) 骨粗鬆症の医学的知識についての理解



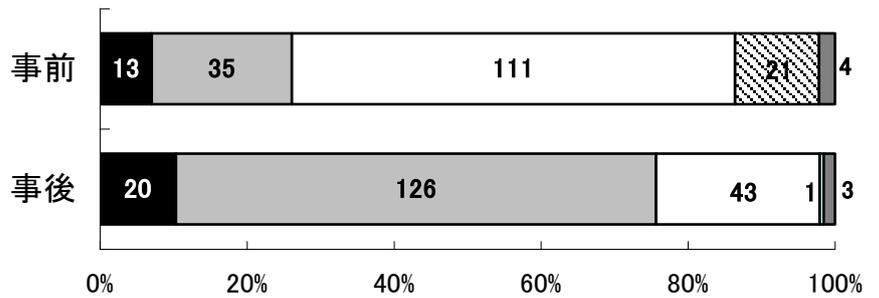
2) 骨粗鬆症治療の現状についての理解



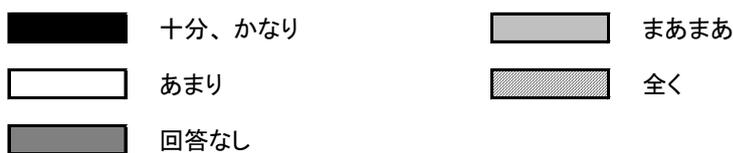
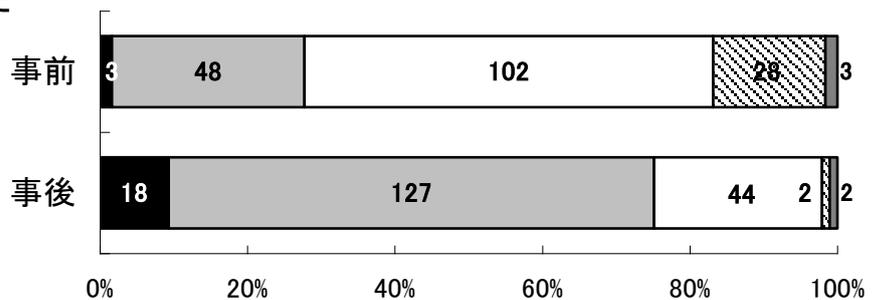
3) 再骨折予防の方法についての理解



4) 骨粗鬆症患者や骨粗鬆症由来の骨折後患者に対する治療やケアの積極的実践について

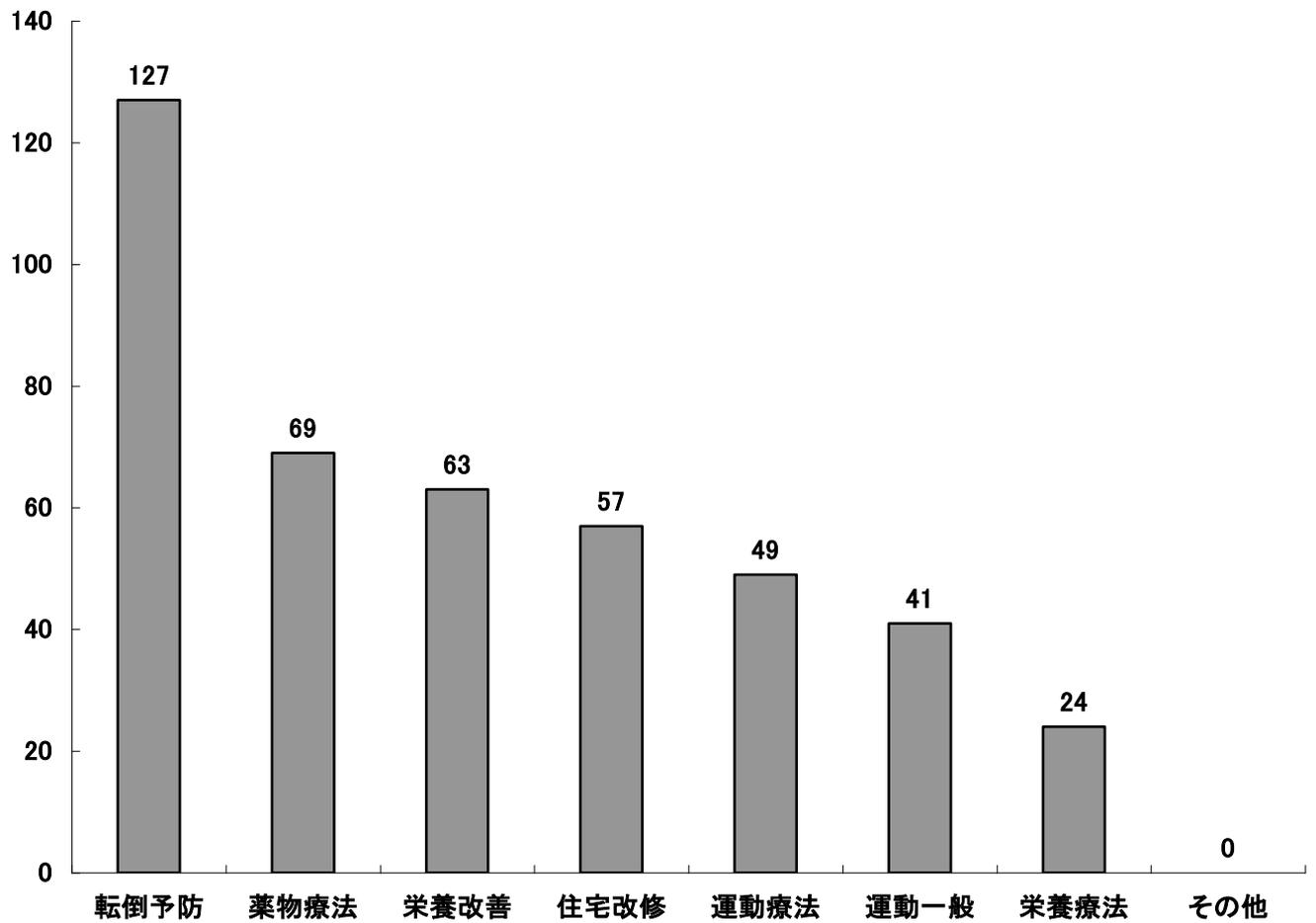


5) 再骨折予防のため、多職種と連携した治療やケアの実践について



# 脆弱性骨折予防として患者様に勧めていること

※ 複数回答可



# あ と が き

新潟リハビリテーション病院  
新潟骨の科学研究所  
顧問 高橋榮明

第2回再骨折予防研修会のアンケート結果をここにお届けいたします。骨粗鬆症が原因で70歳以降の高齢者で急速に頻度が増える大腿骨近位部骨折は80歳や90歳の超高齢者でも珍しくなくなりました。その大腿骨近位部骨折患者さんは脆弱性骨折でも最も再（二次）骨折のリスクが高く、再骨折が起こると寝たきり、そして生命予後にも重大な結果に至ることがあります。

高齢骨折患者さんの反対側骨折予防には、多職種専門職の協働が必須です。チーム医療・チームケアには担当者の「協働力」が必要です。研修会参加者が再骨折予防の重要性を理解し（「態度」）、骨粗鬆症の病態・治療などの医学的「知識」を増すことは、再骨折予防への各担当者個人の準備といえましょう。さらに各自の職場において、チームをつくり、運用するスキル（「技能」）が必要です。チーム医療・チームケアに必要な協働力とは、態度・知識・技能が合わさったこの多職種のスキル-ミックスです。

今回の再骨折予防研修会に、多数の医療分野、介護分野の専門職が参加されたことは再骨折予防のためにとっても素晴らしい第一歩です。事前・事後アンケートでは骨粗鬆症の病態と、その治療の知識、予防方法に関する個人の理解が深まりました。自宅あるいは施設における骨折後患者に対する治療やケア、さらに再骨折予防の実践が次の課題です。

病院内、病診間、診診間、病院・施設間、診療所・施設間において、チーム医療・チームケアを担当する多数の医療職・介護職間で、患者と家族に対するサービスとケアにギャップを生じている可能性があります。参加した皆様はそれぞれの職場において、大腿骨近位部骨折患者の二次骨折予防という観点からギャップの可能性についてご検討ください。その対策をどうしたらよいかを職場内ミーティングで話題として取り上げ、その予防に何ができるか考え、その改善策を実践していただくことを期待しています。